

登山月報



鳥ヶ山



日本山岳遺産サミット開催



BWC加須大会パーティ



再建されたロールワリンの小学校



| | |
|---|----|
| I F S C Climbing World Cup Bouldering Kazo 2016 開催報告 | 1 |
| 第6回日本山岳遺産サミット開催 | 5 |
| 第90回 Mountain World | 7 |
| 新連載 「山の日」制定記念 —ふるさとの山を登ろう— | 8 |
| 競技部委員総会報告 | 9 |
| ネパール大地震救援募金報告 | 11 |
| JMA、寄贈図書、編集後記 | 12 |

I F S C Climbing World Cup Bouldering Kazo 2016開催報告

はじめに

Bouldering World Cup 2016第2戦が4月23日、24日、加須市民体育館で開催された。ボルダリングのワールドカップは、加須市では2009年に開催、今回は7年ぶり2回目となる。女子は、日本のエース野口啓代が準決勝敗退となる波乱のなか、イギリスのショウナ・コクシーが、1週間前のスイスMeiringenに続いて優勝。昨年8月の大会より3連勝の勢い。男子は、2009年の加須大会で2位だったロシアのルスタン・ゲルマノフが優勝。全体的には、ヨーロッパ勢の強さが目立った大会であった。

一方運営面では、日本は多くのトップ選手を抱えな

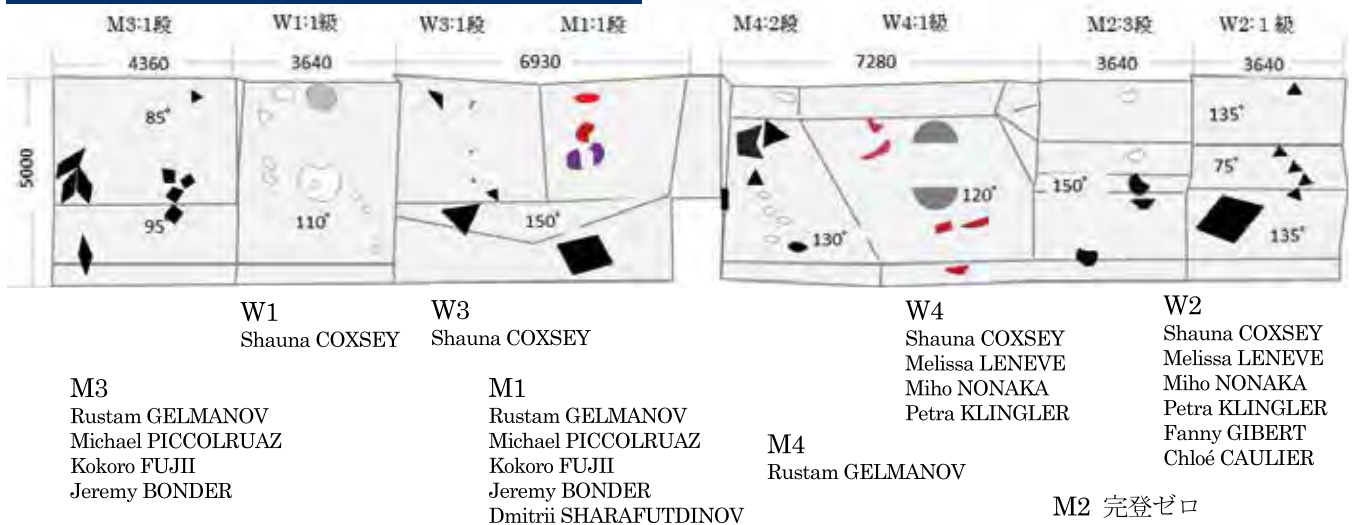
がら、ワールドカップの開催は2年に1回と少ない。ただし、現在オリンピック追加競技候補として、高い運営が望まれている。どこまで近づけたかこの報告から感じ取っていただければ幸いです。

なお、表彰式において優勝したルスタン・ゲルマノフ選手のロシア国歌を間違えたことをここにお詫び申し上げます。今後二度と起きないための管理体制を徹底していく所存です。

1. 競技

今回は25の国と地域から男子69人(日本22人)、女子53人(日本22人)合計122人の選手が参加。ボルダリングは、陸上や水泳など他の競技と違って、各大会の順位

図1 決勝ルート概要と完登



が大きくばらつく。それは、ルートを読みという要素がトライ数に影響し結果順位に繋がってくるためだ。予選では女子、男子2グループに分かれての実施。日本は女子で5人、男子で4人が準決勝へ進む。準決勝では、決勝進出6位のボーダーラインに男女ともに数人が並ぶ。ボーナスの成績で野中萌生がぎりぎり通過。男子は、藤井快が全ルート完登の1位で決勝へ。期待が高まる。決勝は、選手紹介・オブザベーションを含めて午後2時から開始。テレビの生中継も始まる。(※ルートの概要は前頁の「図1. 決勝ルート概要と完登」を参照)

★女子決勝

W1 (第1課題)：中盤のハリボテ系のホールドから上部の三角のボリューム(ボーナス)を取り、続くハリボテ上部を保持する一連のムーブが核心。他の選手がボーナスでいっぱいのところショウナ・コクシーが一撃完登。無駄がない。

W2 (第2課題)：135°に被った壁の大きなハリボテからスタート。そのハリボテに乗り込み傾斜が緩い三角のボリュームが並ぶ右端へ移動し、上部の覆いかぶさるようにある終了点をバランスを保持しながら取りに行く。全選手が完投する。ほとんどの選手が最後会場を向くムーブに観客が沸く。

W3 (第3課題)：ここは保持力が試されるルート。中段



から終了点に続くデュアルテクスチャーのカチが3つ続くところがポイント。ここでもショウナ・コクシーが一人完登。それも一撃のパフォーマンス。一方野中選手もボーナスを2トライで獲得。これによって3位まで上げてくる。

W4 (第4課題)：見ていて楽しいルート。スタートから半円系のハリボテヘラウンジしそのハリボテへ乗り込み、左に離れた終了点に体を振られながら取りに行く。1トライでショウナ・コクシー、メリッサ・レ・ヌーブが完登、2トライで野中萌生、ペトラ・クリングラーが完登。結果この並びで順位が決まる。

★男子決勝

M1 (第1課題)：ループ下の大きなハリボテから上部にある縦長の丸みを帯びたホールドを取りに行く。優勝したルスタン・ゲルマノフをはじめマイケル・ピコーラス、藤井快、ジェレミー・ボンダーの5人が完登。

M2 (第2課題)：ここは、ハンゲ下の奥まった位置からハリボテとカチを取って次の丸みを帯びたホールドへ繋げていくムーブが非常に厳しく完登はなかった。

M3 (第3課題)：スタートのひし形が組み合わさる位



置から、右にあるホールドへ限りなく薄いフットホールドを軸にバランスでやり込む一連の動きが核心のムーブ。ルスタン・ゲルマノフ、マイケル・ピコーラス、藤井快、ジェレミー・ボンダーが完登。この時点で準決勝1位で通過した藤井選手は3

位に落ちる。1位ルスタン・ゲルマノフ、2位マイケル・ピコーラスだがその差はM2のボーナスのトライ数1のみ。勝負は最後の課題に持ち越される。

M4 (第4課題)：33mの全壁の真ん中に設置された最終ルート。最初パーム系の大きなボリュームに指先がやっとかかるほどの小さなホールドを設置したホールドが3つ並ぶ。上部には四角と三角のボリュームが平行に並びその処理がポイント。ここでは、ルスタン・ゲルマノフが、平行に並ぶボリュームをガストン気味に押さえ体をあげそのボリュームの間に膝を入れてレストイングするなど余裕のパフォーマンス。唯一の完登となる。

成績 女子

| 順位 | 氏名 | 国 | 決勝成績 |
|----|-----------------|-----|---------|
| 1 | COXSEY Shauna | GBR | 4t7 4b7 |
| 2 | LE NEVE Melissa | FRA | 2t2 4b5 |
| 3 | NONAKA Miho | JPN | 2t3 4b6 |
| 4 | KLINGLER Petra | SUI | 2t3 3b4 |
| 5 | GIBERT Fanny | FRA | 1t1 2b4 |
| 6 | CAULIER Chloé | BEL | 1t3 3b8 |

成績 男子

| 順位 | 氏名 | 国 | 決勝点検 |
|----|-----------------------|-----|----------|
| 1 | GELMANOV Rustam | RUS | 3t3 4b4 |
| 2 | PICCOLRUAZ Michael | ITA | 2t2 4b8 |
| 3 | FUJII Kokoro | JPN | 2t4 4b8 |
| 4 | BONDER Jeremy | FRA | 2t8 4b12 |
| 5 | SHARAFUTDINOV Dmitrii | RUS | 1t2 3b8 |
| 6 | RUGENS Rolands | LAT | 0t 1b2 |

決勝では女子、男子ともに日本以外はヨーロッパの選手でありヨーロッパ勢の盛り返しを感じる。そして、女子においては、ショウナ・コクシーの強さが目立った。予選からみると一部バランス的なムーブで動きが途切れる部分も見られたが、準決勝のW2、W4を除いて1トライでの完登が約80%と強さだけでなく好調ぶりが窺える。どこまで優勝が続くか楽しみだ。一方男子は、ルスタン・ゲルマノフが、準決勝ではてこずる場面もあり同率2位で通過したが、決勝は力を温存していたような力強い登りで優勝を勝ち取った。

また、日本勢においては地元のプレッシャーもあり厳しい戦いであったと思うが、女子では野中萌生、男子では藤井快が3位、表彰台に上がったことは主催者としてホットしている。今後の活躍を期待したい。



2. 運営

今大会、開催地加須市から施設・設備の提供、スタッフの関わりなど今までにないほどの全面協力を頂いた。そのような市の体制であっても2007年、2009年の加須市で開催された、ワールドカップの経験が通じないほど目指す運営内容は多くの課題が山積した。大会には、IFSC、日本山岳協会を始め、埼玉県山岳連盟、加須市山岳連盟、大手広告会社、TV中継関係、会場演出関係、メディア、ボランティアと多くの組織が関わり連携が非常に難しかった。その状況下全体を見ることに注力したが、管理が及ばず各事項が半端な状態で大会を向かえた。そして、これらの準備を進めながら、選手の最終確

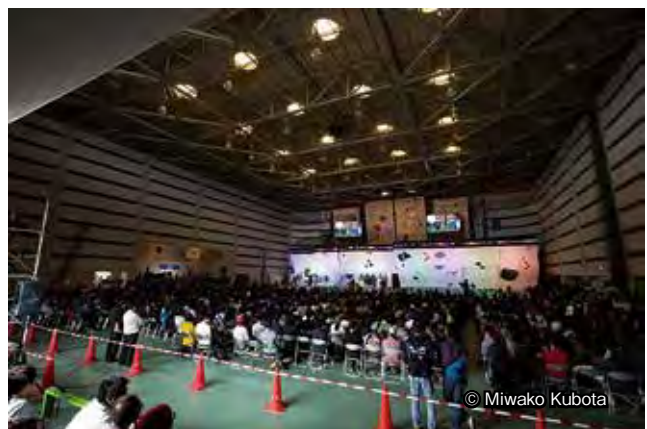
認、競技時間の見直し、スタッフ、関係者のID発行や、演出の確認と非常に煩雑な状況にあった。その状況下小さなミスが続く、スタッフTシャツ、販売Tシャツの制作でスポンサー様のロゴ使用の確認不足が発生。販売不可のご指摘を頂く。(最終的には販売可の許可を頂く)

競技中にも、テクニカルインシデント対応でのタイマーの位置、ビデオの再生など細かな対応が発生。この辺も大会前に現在のIFの基準を詰めておけば発生は防げたと考える。

そして、報告の「はじめ」にも書きましたが、男子優勝国の国歌を間違える(ロシア国家の古いものを使用)という状況が発生させてしまう。確認不足によるものであるがここでも組織の運営レベルの見直しが必要と感じた。

競技スポーツとしてIFSCが目指す運営には競技運営と、大会全般の管理体制(組織)をもっと明確に棲み分けし、具体的な実施内容を詰めていくことが必要と感じる。(※演出は外部委託に徹することも一つ)またリーダーの部分においても今回IFSCの組織体制から責任者を設けたが、この辺の職務分掌を明確にすることも優先課題と考える。やること、確認することが明確になれば組織は動く。

IFSCが目指す運営は、主催者ハンドブック2016年版が基準となる。内容は87ページに及ぶもので競技以外にもビジュアル的な演出についても言及されている。昨年の10月ごろから実行委員会を重ねる中、このハンドブックとの確認をIFと行いながら運営の組み立てを行った。それでも大会前日のIFとの打ち合わせでは細かな修正が見られた。



壁の形状は、安全基準、セッターの意見、演出面を考慮し設計。色はホルドの各色、照明に対応できるマンセル5PB9/0.5を採用。モニターは2.5×4m、2基設置。

セッターの仕事



今回のルートセットは以下の3人と日本のセッターで行った。選手のパフォーマンス、完登状況は観客を大いに沸かせた。そのセッティングでは上の黒板にあるような形で支持されていた。明確な指示と共通認識、外国人の合理性だろうか。

IFSC Chris Danielson (U S A) ,Mathias Woitzuck (A U T) ,Hiroshi Okano (J P N)



スポーツ振興基金助成事業

独立行政法人日本スポーツ振興センター

3. 観戦

観戦チケットは予選は当日券はあったが準決勝・決勝はネットで完売の状況となった。

会場の入場数を安全面から1100人(観戦600、選手・関係者150、スタッフ250、スポンサー100、マスコミ他100)で設定したが、24日の会場の総数(通過人数)は約1300人となった。

クライミングの人気上昇はもとより、オリンピックという魔法のすごさを感じた。

最後に、株式会社八海山様、マムートスポーツグループジャパン株式会社様、オリエンタルバイオ株式会社様、牛乳石鹼共進社株式会社様、三井不動産株式会社様、株式会社日能研様、ならびに大会開催にご支援ご尽力いただきました多くみなさまに、運営に携わった関係者の皆さま心よりお礼申し上げますとともに、今後とも引き続きご指導ご鞭撻いただきますようよろしくお願いいたします。

(BWC 2016 KAZO 実行委員会 副実行委員長 村岡正己)

第6回日本山岳遺産サミット開催

山と溪谷社の創立80周年を記念して創設された日本山岳遺産基金も6年目を迎え、6回目のサミットが2月27日(土)13時30分より東京神保町の三井ビル内インプレスグループ・セミナールームで開催されました。

日本山岳遺産基金は、日本の山の自然と文化を次世代につなげるため「山岳環境保全」「次世代育成」「安全登山啓発」をテーマに活動をしています。毎年、豊かな自然や人と自然のかかわりを有する日本の山岳地域を「日本山岳遺産」として認定し、積極的にこの3つのテーマで活動している団体に助成を行っています。

次世代育成の一環として田部井淳子さんと共催で東北の高校生の富士登山を行っているとともに、(公社)日本山岳協会にも各都道府県主催のジュニア登山教室に年間50万円の支援を頂いており、昨夏のジュニア登山教室 in 立山の様子も映像と共に紹介されました。

第1部 日本山岳遺産認定地発表

サミットは川崎美雪山岳遺産基金会長のあいさつで始まり第1部として2か所の日本山岳遺産認定地と活動団体が発表されました。

- 1.南木曾岳(長野県) /南木曾山士会
- 2.三嶺(高知県・徳島県) /三嶺の森をまもるみんなの会

それぞれの団体から登山道の整備、シカの獣害により裸地化した地域のマットを利用した植生復元やシカの管理捕獲などの活動が報告されました。特にシカの食害は全国で悩まされている問題なので、具体的な活動報告にそれぞれの地域に重ね合わせ、質問も多数寄せられました。アドバイザーボードの日本山岳協会顧問の田中文男氏の講評で第1部が終了し、第2部の特別講演に移りました。

第2部 特別講演：中村浩志信州大学名誉教授の「日本の高山環境とライチョウの今」

日本の高山に生息する特別天然記念物ライチョウは1980年代の3000羽から現在は2000羽に減ったと推定されており、絶滅が心配されています。鳥類でもカッコ



ウが専門の先生は恩師羽田先生の後をついで51才からライチョウの観察と保護に取り組むようになり、主に乗鞍岳を中心に年間80日はライチョウの観察をされています。

氷河期の生き残り生物として日本の高山に生息しているライチョウは、人を恐れず近づいて写真を撮るのも容易ですが、アラスカやヨーロッパのライチョウは体も大きく狩猟の対象にされて来たことからすぐ逃げ50m以内には近づけないとのこと。古来より稲作文化の日本では山岳信仰から里山は人の領域、奥山は神の領域、ライチョウは神の鳥として高山帯のお花畑と共に守られてきました。牧畜文化のヨーロッパとの違いでしょう。

日本のライチョウ減少の原因は①個体数が少なく、山脈ごとに遺伝的に隔離されている②低山動物の高山への進出。本来キツネ、テン、チョウゲンボウ、カラスが天敵だったがサル、シカ、ツキノワグマ、イノシシなど低山の動物進出による食害や踏みつけによる植生の破壊。③地球温暖化によるハイマツ減少など住環境の悪化があげられます。

大天井岳の稜線で中村先生が撮影されたライチョウを銜えている猿のテレビの映像に驚かれた方も多いのでは？先生たちが大声で威嚇しても猿は幼鳥を離すことなく逃げて行ったとか。本来ニホンザルは生きた動物を捕食しないのですが、このような行動が群れの中で他の個体に伝播する恐れがあると考えられます。

ライチョウの保護・増殖には生息域での「保域内保全」動物園などで飼育を試みる「域外保全」があり、域



内保全の取り組みとして、孵化後生存率が落ちる1か月間のケージでの保護はNHKの「ダーウィンが来た」でも紹介されました。

トキやコウノトリの残した教訓①保護は集団が健全なうちに②野外で生きるすべは教えられない。③域外保全は野外集団の存在する場合に効力がある④いったん絶滅したものを人の手で復帰することはとてつもない事業である

これらを心に留め、ライチョウの観察と保全に取り組んでいきたい。研究者が少ないので後継者が出ることを期待しているとお話を結ばれました。

最後に「登山者にできることは？」の質問には、「登山者のマナーは非常に良くなってきたのでライチョウへの直接被害はない。高山でサルやシカなど見つけたら、大声で叫ぶなど追い払ってほしい」また、「統計を取りたいのでライチョウやサルなど見かけたらスマホで撮影して長野県庁に送ってほしい」とのお話でしたので是非ご協力を！ (顧問 本木総子)

熊本大地震のお見舞いと義援募金へのご協力について (お願い)

去る4月14日の前震から始まった熊本・大分両県を中心とした群発地震で、甚大な被害を蒙られた被災者の皆様に心よりお見舞いを申し上げます。

私たち全国の山仲間、皆様の安全を祈念しつつ、この困難な状況を一刻も早く改善する復興活動に出来る限りの協力をしたいと考えております。

本協会では、被災地の復興と被災者の救援のための義援金を呼びかけることに致しました。是非、皆様のご協力をお願いします。募金は個人、団体を問いません。

公益社団法人 日本山岳協会 会長 八木原 罔明

【義援募金送金方法】

- ①銀行振込み みずほ銀行 渋谷支店
口座番号 普通預金 3382501
口座名 シャ)ニホンサンガクキョウカイ
- ②郵便振替 口座記号番号 00110-5-546693
加入者名 公益社団法人 日本山岳協会
※通信欄に「地震義援募金」と記入して下さい。
- ③現金書留 「(公社)日本山岳協会」宛
〒150-8050 東京都渋谷区神南1-1-1
岸記念体育会館内 電話：03-3481-2396

※お名前、金額などを日本山岳協会の機関誌『登山月報』に掲載しますので、匿名を希望される方は、「匿名希望」と明記して下さい。

※5,000円以上のお振込の方で、ご希望の方には税額控除証明書を発行致します。通信欄に「税額控除希望」と記入して下さい。

第90回 Mountain World

シシャパンマで見つかった2人の遺体

池田常道

4月27日のこと、チベットのシシャパンマ(8027m)南西壁に新ルートを拓こうと高所順応中のウエリ・シュテック(スイス)とダーフィット・ゲトラー(独)は、基部の氷河に氷漬けになった遺体があるのを発見した。このあたりで行方不明になっているのは、1999年10月のアメリカ・スキー隊しかない。

ゲトラーはさっそく当時のリーダーだったコンラッド・アンカーに電話して遺体の着衣と背にしたザックの特徴を伝えた——赤と青のノースフェイス・ザック、黄色いコフラック・ブーツ。アンカーは即座に雪崩に流されたアレックス・ロウ(当時40)とデイヴィッド・ブリッジズ(同29)にちがいないと確認した。遭難から16年と6か月22日が経過していた。

アンカーとロウは、米国人初となる8000m峰のスキー滑降をもくろんで、シシャパンマ南西壁に向かった。撮影を担当するブリッジズに加えてサポート役のスキーヤー、アンドルー・マクリーンやマーク・ホルブルックらを伴った総勢9人のチームだった。

アンカーもロウも当時北米随一のアルパイン・クライマーで遠征経験も豊富、長年のクライミング・パートナーでもあった。ロウは夏にカラコルムでグレート・トランゴ北西壁に新ルートを拓き、アンカーは半年前にスティーヴ・スウェンソンの「マロリー・アーヴィン捜索隊」に加わってエヴェレストへ出かけ、北壁の8000m付近でマロリーの遺体を発見したほか、セカンドステップが梯子なしで登れるかどうか試したうえで頂上を往復していた。

彼らが狙っていたのは1990年10月にスイスのエアハルト・ロレタン、ジャン・トロワイエ、ポーランドのヴォイチェフ・クルティカがアルパインスタイルで登った、南西壁左端に食い込むクーロワールだった。ロウの見立てによれば、「8000m峰のなかで最もダイレクトなライン」で、「通常ルートを滑るよりダイナミックな滑降が期待できる」という目標だった。

10月5日、偵察に赴いたアンカー、ロウ、ブリッジズは氷河から1800mばかり上部のセラックが崩壊するのを目撃したが、頭上に迫る危険はないと判断して写真を撮った。しかし、雪崩は幅150mと規模を増し

て一気に3人を襲った。ロウとブリッジズはクレバスに飛び込もうと右手に逃げたもののたちまち飲み込まれた。左に逃げたアンカーは爆風を浴びて30m飛ばされ、頭部裂傷と肩の脱臼、2本の肋骨骨折を負った。なんとか自力で脱出したアンカーの指揮で後続していたメンバーによる捜索が行われたが、あいにくロウもブリッジズも雪崩ビーコンを身に付けておらず、20時間にわたって深さ6mのデブリを捜索したものの、手袋片方を発見しただけで2人を見つけることはできなかった。

*

未亡人となったジェニーの元には3人の子どもが残された。マックス、アイザック、サムである。アンカーは彼らの養育に手を貸し、やがてジェニーと共有する悲嘆の思いは愛に変わった。2人が結婚したのは2001年のことだった。

アンカーとジェニーは毎年春をポルツェの「クーンブ・クライミングセンター」で過ごしてきた。ロウの遭難を機に設立された慈善基金が運営するプロジェクトである。ゲトラーから電話があったときも、モンタナ州ボーズマンの自宅に帰ったばかりだった。遺体発見の報に接したジェニーは「私の生きているうちにめぐり会えるなんて想像もしていなかった」と驚きを隠さない。地球温暖化に伴う氷河の後退に加え、ここ3年続いた寡雪傾向、そして今季はとくに強風が吹き荒れて氷河上の砂礫を吹き払ったことが融解を促進した結果だとみられている。

まだブリッジズの遺族とは相談していないが、夫妻は成長した3人の息子と夏休みにチベットを訪れて遺体を収容、ニェラムで葬儀を営むつもりだという。



アレックス・ロウ(左)とコンラッド・アンカー。
1995年に撮影されたショット。

「山の日」制定記念

—ふるさとの山を登ろう—

鳥取県・烏ヶ山(からすがせん・1,448m)

中国地方の山と言えば、まず大山(弥山・1,709m)が挙げられるが、その周辺にも隠れた魅力的な山がある。そのひとつが山陰のmatterホルンとも呼ばれる烏ヶ山である。烏が翼を広げたような姿からその名があるが、その頂上部は見る角度によっては、まさにmatterホルンのように屹立している。

登路は鏡ヶ成キャンプ場から新小屋峠経由で迂回気味に登るのが一般的である。キャンプ場から最短距離を登る登山道は、平成12年の鳥取県西部地震により、登山道上部が崩落したため長らく登山禁止となっていた。

しかし、今では崩落地も安定し、相当数の登山者が入り込んで、踏み跡も維持されているのが現状であり、近年この登山道の再開を望む声が高まっていた。そこで関係者が協議を重ねた結果、今年から登山禁止の看板を注意喚起の看板に替えることが了承された。

下部は緩やかな樹林帯であるが、徐々に傾斜が強まり、やがて灌木交じりの岩場となって展望も開ける。頂上直下は残置ロープのある岩場を登ることになる。大きな岩だらけの頂上からは大山や蒜山の眺めが素晴らしい。登り1時間40分程度だ。

なお、この頂上から大山側、鳥越峠への縦走路が2年前に伐開されたが、足元が切れ落ちた危険な箇所があり、縦走の自粛が呼びかけられている。

鳥取県東部・用瀬(もちがせ)アルプス

鳥取市用瀬町は流し雛で全国的に知られているが、「流し雛の館」のある千代川左岸からは宿場町の風情を残す閑静な街並みの背後に、北から南に連なる三角山(みすみやま・516m)、おおなる山(648m)、洗足山一等三角点(せんぞくさん・736.3m)の全容が望める。所々花崗岩の岩肌が露出する山並み景観は、鳥



用瀬アルプス



烏ヶ山

取県東部には珍しく、人を寄せ付けない峻嶮さを持つ。

その三角山から洗足山へのコース整備が地元愛好家の熱心な尽力により進められ、「用瀬アルプス」の名に相応しい登山エリアとして近年注目を集めている。

三山を含む主要な登頂ルートとしては、用瀬支所を起点として、影石城跡または女人堂経由で三角山、同じく西側の金屋から洗足山、鳥居野から洗足山の3つのルートがあり、どちらからでも三山縦走が楽しめる。

又、東の赤波川沿いからも旧道を利用した登山道があり、智頭町側の上板井原からも樅尾城跡を経由するコースや智頭町の牛臥山、海上山ともつながり、2日間くらいの余裕をもった尾根歩きのロングコースの設定も可能となった。

最もポピュラーな日帰りコースとしては鳥居野～洗足山～おおなる山～三角山～女人堂(又は影石城跡経由)～用瀬支所のコースをお勧めしたい。どちらを起点にしてもよいが、グループの場合には乗用車を用瀬支所(支所に一言)または鳥居野集落登山道入口(未舗装の農道に縦列で5台程度)にデポするとよい。所要時間は概ね6時間を見込む。

三角山側は花崗岩の真砂土で滑りやすい。洗足山とおおなる山の間は270mの高低差があり、この付近にエスケープはないので、ペース配分や水分補給など下準備は入念にしておきたい。洗足山展望台と最低鞍部の間の急な登下降をはじめ、ロープや梯子段設置箇所もあり、中級以上の山である。

(鳥取県山岳協会)

競技部委員総会報告

日時 平成28年4月3日(日)10:30～15:30

場所 岸記念体育館1階会議室

出席者 山納秀俊(北海道)、四戸義継(青森)、小山勝稔(岩手・兼)、出雲輝彦(秋田)、本田建(山形)、三森一男(福島)、長谷川美玲(茨城)、佐久間利美(栃木)、赤松久宇(群馬)、横山鉄郎(埼玉)、目次俊雄(千葉)、水村信一(東京)、島田邦昭(神奈川)、山森政之(山梨)、今井浩二(新潟)、松田大(長野)、畑中涉(富山)、上木真吾(福井)、諸戸明(静岡)、佐原晴人(愛知)、松尾浩志(三重)、小島剛(岐阜)、小林広幸(滋賀)、榎本幸博(京都)、石川順一(大阪)、西原斗司男(兵庫)、前田善彦(奈良)、尾崎和彦(和歌山)、山田佳範(鳥取)、大櫃静雄(島根)、神田恭行(岡山)、佐藤健(広島)、古林喜明(山口・兼)、椎野彰浩(徳島)、藤本慎治(香川)、松本一志(愛媛)、新原孝喜、佐藤寿志(福岡)、武末良樹(佐賀)、松崎文彦(長崎)、松井清昭(熊本)、原勇人(大分)、川村昭久(宮崎)、岩本邦夫(鹿児島)、以上43都道府県44

【日山協競技部常任委員】

八木原暁明会長、森下健七郎、京才昭、山本和幸、小日向徹、太田忠行、佐藤豊、滝内壽一、松田龍彦、中村正、寺内丈行、木村実、佐藤旺、土屋正昭、有枝樹雄、(事務局：中川裕)以上16

定刻10時30分に、司会の松田龍彦が平成28年度競技部委員総会の開会を宣言した。

はじめに八木原会長が挨拶をし、「昨年11月からオリンピック開催に向けての諮問委員会を発足し、日山協の名称変更なども含め、様々な環境整備をしなければならない。全国の岳連(岳協)の協力をお願いしたいと述べた。次に森下競技部長が「オリンピック追加種目としてノミネートされてからメディアからの対応も数社から30社～40社と増えた事、大口協賛が付きスポンサー対応等取り巻く環境が激変した事等により、各岳連(岳協)の更なる協力とご理解を頂きたいと述べた。

次に議長の選出をはかり、執行部に一任する旨発言があり、議長には京才競技部副部長が選任された。

議長より定足数の確認が求められ、43都道府県の参加があり、総会の成立が報告された。

議長は、今年開催される「希望郷いわて国体実行委員会」の方が見えているので、最初に議案第6号「第71回岩手国体準備状況報告について」を議場に諮っ

た。

岩手県山岳協会の小山氏、岩手県盛岡市国体推進室の木村氏の挨拶、次に同・猪股氏から国体及びリハーサル大会、リードジャパンカップ他の説明があった。最後に森下競技部長から補足説明があった。

次に第1号議案「平成27年度競技部事業報告について」が諮られた。

(1)平成27年度競技部業務報告

西原競技運営委員長が説明した。

(2)平成27年度競技部合同委員会報告

西原競技運営委員長が報告した。

(3)平成27年度競技運営委員会報告

西原競技運営委員長が報告した。

(4)平成27年度技術(審判)委員会報告

山本委員長より報告があった。

(5)平成27年度選手強化委員会報告

(6)オリンピックプロジェクト進捗状況報告

(5)、(6)は、小日向選手強化委員長が来られてから報告された。

(7)会長諮問委員会経過報告

西原競技運営委員長が説明した。

(8)日本体育協会公認スポーツ指導者(山岳)資格について

西原委員長が説明した。

(9)各種表彰関係について

西原委員長が報告した。

以上を持って第1号議案を終了し、議長はこれについての承認を諮り、満場一致で承認された。

議案第2号平成28年度競技部事業計画について

(1)競技部委員総会について、西原委員長が説明。

(2)競技運営委員会について、西原委員長が説明。

(3)技術(審判)委員会について、山本委員長が説明。

(4)競技運営事業計画について、西原委員長が説明。

(5)競技部ブロック別研修会について、西原斗司男が説明した。

(6)第71回岩手国体以降の指導と推進について、西原委員長が説明した。

(7)日山協公認クライミング審判員、ルートセッター、指導運営員の認定更新事務推進について、西原委員長が説明した。

(8)日体協公認指導者(クライミングコーチ、上級指導員、指導員)の養成の推進について、西原委員長が説明した。

(9)トレイルランニング競技の推進について

(10)アンチドーピングへの取り組みの推進について

西原委員長が説明した。

(11)競技力向上事業の推進について

西原委員長が説明した。

(12)各種表彰関係について

(13)選手強化委員会について、小日向委員長が不在のため、後で説明する事とした。

以上の議案説明の後、質疑を受け、鳥取県より資格の昇格等の事務処理が遅れているとの質問があり、事務局の中川氏から「申請された登録料等の振込確認等が済んでいない。B級以上の振込は、岳連を通すのでは無く登録者個人に直接通知して行う方向での」との回答があった。

愛知県からは「コーチ資格等の確認作業について説明資料等を用意してくれないか？」との質問があり、西原委員長が「基本的には日体協のHPで確認するのが確実で、各種受講データは日山協の指導委員会を通して日体協へは提出しているので、指導委員会に確認してもらいたい旨回答があった。また、「指導員資格の義務研修については、岳連(岳協)によって様々だが、今回の日山協の競技部委員総会は研修会と位置づけであり、今回、総会に出席された皆さんは義務研修を受けた事になると伝えられた。

議長は第2号議案について承認を諮り、満場一致で承認された。

第3号議案「平成28年度国体山岳規則集の一部改訂について

西原委員長が配布資料に基づいて説明した。また、森下競技部長から「従来の国体規則では組織図上に競技部長を位置付ける役職が無く、一部変更をお願いしたが、変更は認められなかったと説明があった。

第4号議案「技術委員会関係について

山本委員長より資料に基づいて説明があった。

第5号議案「国体ブロック別出場都道府県割り当数について

西原委員長から説明があった。

第6号議案「岩手国体の準備状況については、冒頭で岩手県国体推進室より説明があった。

第7号議案「選手強化委員会報告について」

I F S C ボルダリング・ワールドカップ加須大会の開催、2020年オリンピックに向けての状況等について小日向選手強化委員長より説明があった。

女子のボルダリングの国別ランキングは1位だが、リードは現在4位となっている。リード、ボルダリン

グ、スピードの総合的な競技力向上のために、それぞれの競技の担当指導者を作り総合的な競技力向上を図る旨の説明があった。

また、選手がプライベート・コーチをつけている場合があり、日山協として全体的な指導をする場合にこれが妨げになる場合があるので、今後はこの辺りの調整・整理が必要と思うとの説明があった。

議長は第3号議案～第7号議案について質問を受けた後、承認を諮り、満場一致で承認された。

次に、各山岳連盟の強化事例について発表を行った。

最初は北海道岳連から「北海道ユースチーム強化方針・選手心得」が資料を元に発表された。「競技力向上と共に、クライミングの楽しさを理解させ、同時に選手の精神面や社会的倫理等の指導も行っている」との報告がなされた。

次に森下部長より、埼玉岳連の選手育成に対する考え方や指導方法について埼玉県加須市での事例を基に説明がなされた。

最後に山口岳連より20年以上に亘る選手育成のための幅広い活動をスライドを使って詳しく紹介して頂いた。

次に、広島・佐藤氏より、パラクライミングの現状にて説明があり、「昨年開催した全日本パラクラミング選手権を2020年のオリンピック開催に合わせパラリンピックが開催出来る様に、パラクライミングについて、各岳連の理解・協力をお願いしたいと説明があった。

最後にトレランについて、佐藤旺氏より現況の説明があり、本年4月中旬に一般財団法人日本トレイルランニング協会が登記する方向で進んでいる事が発表された。

午後3時30分、議長は本日の全ての議事が終了したことを告げ、競技委員総会の閉会を宣言した。

(文責 寺内丈之)

北極圏屈指のロングトレイルを歩き、スウェーデン最高峰に登る

**“王様の散歩道”トレッキングと
スウェーデン最高峰登頂 11日間**

発着地 **東京** 出発日 **7/14(木)・8/17(水)**

旅行代金 **¥596,000~¥612,000**

※燃油サーチャージ(2016年4月20日現在:目安約6,000円)が別途必要です。

旅行企画・実施 観光庁長官登録旅行業第490号/日本旅行業協会正会員/ポッド保証会員

 **アルパイン ツア サービス 株式会社**

〒105-0003 東京都港区西新橋2-8-11 第7東洋海ビル4階 ☎03-3503-1911

大阪 ☎06-6444-3033 名古屋 ☎052-581-3211 福岡 ☎092-715-1557

e-mail:info@alpine-tour.com http://www.alpine-tour.com

ネパール大地震救援募金報告

昨年4月25日に発生した、大地震でネパールは甚大な被害を受けました。そこで日本の主要山岳6団体（公益社団法人日本山岳協会、公益社団法人日本山岳会、公益社団法人日本山岳ガイド協会、日本勤労者山岳連盟、日本ヒマラヤン・アドベンチャー・トラスト、日本ヒマラヤ協会）は共同して、「ネパール大地震救援募金」活動を行ってきました。

この募金活動は、平成28年3月末日をもって一旦締切と致しましたので、ここに寄付金総額とその贈呈先及び使途についてご報告いたします。

1 寄付金総額

（公益社団法人日本山岳会指定寄付口座着金額）
27,942,390円（内日山協分205件、6,368,826円）

2 贈呈先

①ランタンプラン（日本のN G O団体）10,000,000円
土石流で崩壊した、ランタン地域の再興のために活用されています。

②MACFOD NEPAL（カトマンズの公共団体）
12,123,000円
地震で損壊した、ロールワリン地域の2つの学校の再建に活用されています。

③S P C C（サガルマータ汚染管理委員会）
1,800,000円
ルクラ近郊に大型のゴミ焼却炉を建設するための資金として活用されています。

④カトマンドゥ緑の基金（日本のN G O団体）
1,000,000円
首都近郊の山村への食糧（米500kg等）、トタン板、学校仮設費用に活用されています。

⑤ネパール登山協会（N M A、20,000米ドル相当）
2,250,600円

⑥諸経費（ロールワリン地域へシェルパ調査派遣1,000米ドル、山岳6団体銘板、銀行送金手数料）



村が消失したランタン谷



NMA会長に募金を渡す八木原会長

483,790円

支出合計は、27,657,390円です。

残額は、285,000円ですが、これは今後の学校備品等の補充などに充当してまいります。

以上、山岳6団体による、ネパール大地震救援募金の贈呈先と贈呈金額についてご報告申し上げます。

なお、今秋には、ロールワリンの学校建設地がガウリシャンカールの好展望地でもあるため、学校建設のその後の進捗の確認と生徒たちの激励をかねて、トレッキングチームを募集することを計画しております。



カトマンドゥ緑の基金の救援物資



再建されたロールワリンの小学校



平成28年度(28年4月)
常務理事会報告

日時 平成28年4月7日(木)
18時～21時

場所 岸記念体育会館・103会議室

出席者 八木原会長、尾形・國松・高橋・
亀山各副会長、小野寺、西内、森下、水
島、瀧本、中瀬各常務理事、中島監事
委 任：仙石、京オ、各常務理事
(14名中12名出席)

1. 議 事

- (1)平成27年度3月常務理事会議事録の承認について(事前送付済)
異議なく承認された。(今後、メールで承認された議事録は、コピーで添付しないことになった。)
- (2)平成28年度第1回理事会次第について資料に基づき小野寺事務局長から説明があった。
報告事項として、監事監査報告、スポーツ界の時局報告、会長諮問委員会報告、「山の日」記念事業、審判・ルートセッター登録台帳の進捗状況報告などを加えることで、承認。
- (3)平成27年度事業報告及び収支決算報告(案)(配賦前)について事業報告案は、後日メールにて、追加・修正を乞うことで、承認。
収支決算報告は暫定資料に基づいて小野寺事務局長が説明を行った。
- (4)正会員入会承認について理事会に諮ることで承認。
- (5)U A A A ジョイント・ハンテングリ・カーリー・タウ応募追加について幸福真実、鈴木将太の追加応募者が、承認された。
- (6)2016年代表選手の承認について(資料に基づいて選手強化委員会から提案された2016年ボルダリング日本代表選手30名とI F S C クライミングW C 加須大会への追加参加選手15名が承認された。)
- (7)協力名義使用の承認「サンガクエンントリー」について
小野寺事務局長が資料を基に説明を行い、幾つかの条件付で承認。

2. 報告事項

- (1)平成27年度第4回理事会議事録
事前回議されており、全員が了承。
- (2)平成27年度補正予算(第3次)について事前回議されており、全員が了承。
- (3)28年度国体担当者について
27年度と継続の件で、全員が了承。
- (4)国体アンケートについて
国体に中学2年生も出場出来るかどうかのアンケートであり、競技部に回答も委ねることになった。
- (5)事務所移転計画概要について
以前よりは詳しい概要が報告された。
- (6)元気富山スポーツ賞について
J O C ジュニアオリンピックカップが富山県で「元気富山スポーツ」賞を頂いたことが報告された。
- (7)日本選手権兼日本ユース選手権リード競技大会報告(競技部)
双方合わせて240名を超える選手が出

場し、C S の実況放送があった事などが報告された。

- (8)日本ユース選手権ボルダリング競技大会開催要項について
森下競技部長から資料に基づき説明があった。
- (9)6月常務理事会日程変更について
八木原会長がU A A A 理事会出席のため、6/16に変更。
- (10)冠「東日本大震災復興支援」について
本冠は28年3月31日をもって付与しないことになった。
- (11)三宅村クライミングウォールリニューアル式典報告
村興し企画の一つである式典に亀山副会長が出席された。
- (12)審判セッター会議の報告
森下競技部長が資料に基づいて報告した。
- (13)I F S C ワールドカップ進捗状況
- (14)審判員台帳について
森下競技部長から報告があった。
- (15)みんなあつまれ! なすかし雪遊び隊2016の中止について
中瀬常務理事から申込みが無く、中止した旨、報告があった。

3. 指導員・審判員 検定結果報告

- (1)指導員
 - A C 指導員：奈良裕樹、吉田雅子、吉居寛記(以上、神奈川3名)、中島隆之、松山貴章(以上、岩手2名)、小田隆司、西原紀子、上野博史、引網多論子、和田卓雄、富山望、清水一樹、大石明人、稲垣学武、山本めぐみ、田中克欣(以上、大阪11名)、三嶋信、宮森千治(以上、愛知2名)
 - A C 上級指導員：勅使河原暁(栃木)、秋山由華(東京)、坂井田博義、西川俊正(以上、大阪2名)
 - S C 指導員：中道輝久、黒沢健、高野慎一郎(以上、静岡3名)
以上、異議なく承認された。
- (2)競技ルートセッター及び審判員承認。
森下競技部長から資料に基づいて、承認提案があった。
<ルートセッター認定者>
 - ①南砺ルートセッター講習会
 - ・競技C級：佐藤優哉、松島由希(以上宮城)、笠原大輔(長野)、徳永潤一、中村雅志(以上愛媛)、新川裕希(千葉)
 - ・公認：福田宗次郎(鳥取)、小西大介(岡山)、山越政樹(岐阜)、宮田尚文(奈良)
 - ②加須ルートセッター講習会
 - ・競技C級：白戸亨司(福島)、大田理姿(山口)、是永敬一郎(埼玉)、國谷斗馬(北海道)永田乃由季(東京)
 - ・公認：鈴木直也(神奈川)
- <審判員昇級認定者>
 - ①C級→B級
 - ・審判(J O C ジュニアオリンピックにて審査)：樽正人(千葉)、藤江理枝(東京)、松尾浩志(三重)、宮原敏明(佐賀)
 - ・審判(和歌山国体にて審査)：武井浩、永井繁明(以上愛媛)
 - ・審判(高校選抜選手権にて審査)：井上昇、横内鉄郎(以上埼玉)、村松久徳(山梨)
 - ②B級→A級
 - ・審判：羽鎌田直人(東京)畑中涉(富山)
 - ③C級
各ブロック別研修会での96名の合格者も全員承認となった。

4. 後援報告、協賛等の依頼について

- (1)大阪チャレンジ登山後援名義

- (2)八方バーチカルスキー後援名義
- (3)毎日新聞、「ザ・マナスルデー」、「ザ・ネパールフレンドシップデー」後援名義
- (4)福井岳連創立60周年記念事業後援名義
- (5)福井岳連・古道を訪ねて後援名義
- (6)スポーツライミング・アウトドアビレッジカップ後援名義
上記6事業に対して異議なく承認された。

5. 専門委員会動静

(3月1日～4月6日)

〔報告〕

- (1)国際委員会
3月9日(木) 出席者11名 委任2名
ア)報告事項
・登山部の情報連絡体制ー登山部メーリングリストの作成について
・B M C 女性国際クライミングミート2016(6/12-19)について
イ)協議事項
①平成28年度総会兼第55回海登研について(6月11日～12日、京都府立ゼミナールハウス)
②ロシア女性クライミングフェスティバルについて(4/11～4/24)
③国内外に向けてのH P 案について
(2)デジタル情報チーム 3月14日(月)
出席者5名 委任1名
ア)H P リニューアル発注について
イ)検討課題について
①Facebook
②H P 記事掲載依頼のルーチンを作る
③「お知らせ」の分類方法
④「ドキュメント」の分類方法
⑤「English」ページの作成
⑥カテゴリーの再構築
(3)自然保護委員会
3月17日(木) 出席者15名
ア)山岳団体自然環境連絡会報告(2/25、於：労山)
イ)「鹿食害の全国規模アピール集会(仮称)」シンポ開催提案について
ウ)茨城県山岳連盟創立60周年記念式典・祝賀会報告(2/27、水戸市)
エ)高校生の自然保護指導員任用について
オ)自然保護指導員養成出前講座について(3/5～6、埼玉・小川町げんきプラザ)
カ)自然保護指導員更新受付状況について(平成28年度更新予定者392名、現在45名受付中)
キ)常任研修会の実施について
ク)第40回自然保護委員総会(記念大会 全国山岳自然の集い中央大会)実行委員会報告
(4)指導委員会 3月7日(月) 出席11名
ア)スポーツ指導者専門科目修了認定(前記指導員検定結果参照)
イ)S C コーチ養成講習会
・6月24, 25, 26 机上講習(都岳連)
・7月16, 17, 18 実技講習(7/17-18: 昭島市S C、7/16: 明治大学(未定))
ウ)A T (アスレチック・トレーナー)養成講習会推薦依頼：順位付け陣内健太(佐賀県：岳連より推薦)、樋口琢哉(千葉県：個人)
エ)氷雪技術(富士山)について
オ)規約改定作業について
(5)指導委員会
4月4日(月) 出席 委任
ア)指導・競技合同会議(3/24)報告
イ)スポーツ指導者専門科目修了認定(前記指導員検定結果参照)

- ウ) S C コーチ養成講習会
 - ・6月24, 25, 26 机上講習(都岳連)
 - ・7月16, 17, 18 実技講習(7/17-18 昭島市S C、7/16明治大学)
- エ) 氷雪技術(富士山)について
- オ) 指導委員総会について
 - 6/11(土)~12(日) 東京海員会館
- カ) その他
 - ① S C 指導員養成講習会・中国ブロック合同開催について
 - ② 規約改定作業について
 - ③ 指導・競技合同会議(日程検討)
 - ④ 夏山リーダー検討会
 - ⑤ 遭難対策委員会
 - 3月30日(火) 出席 8名
 - 1) 長野県ガイドライン制定経過報告
 - 2) 遭難対策常任委員研修(4/16~17)について
 - ⑥ 指導との合同研修(技術のすり合わせ)の内容について
 - ⑦ 平成28年度事業について
 - ⑧ レスキュー講習会の講習内容の見直しについて
- 24) 登山倫理シンポジウム計画(5/22)について
- 34) 登山医学会山岳認定医パネラーの件

- について
 - 27) 総会(6/25~26)について
 - カ) 全国山岳遭難対策協議会(7/8)について
 - キ) 指導・遭難合同研修(8/20~21)について
 - ク) 9/9~11無雪期レスキュー講習会(9/9~11)について
 - ケ) 一般登山者教育について
 - コ) U I A A S T A N D A R D 調査(ウェールズ・プレッシープレノン)について
 - サ) ヒトココと加藤電機の位置探知機について
 - シ) コンパス、サンガクの登山届出について
 - ス) 平成28年度常任委員の推薦について(若返りを図る)
- (7)ジュニア普及委員会
 - 3月22日(火) 出席4名 委任4名
 - ア) なすかし雪遊び隊中止の経緯報告
 - イ) ジュニア登山教室の問題点と改善方法について

6. その他の重要事項
(2月27日~4月5日)

- 〔報告〕**
- (1)茨城県山岳連盟創立60周年記念式典・祝賀会 2月27日(土) 於:水戸三の丸ホテル 八木原会長
 - (2)全国「山の日」協議会運営委員会 3月1日(火) 於:日本山岳ガイド協会 尾形副会長
 - (3)第4回理事会 3月6日(日) 於:フォーラムエイト 八木原会長他
 - (4)噴火時等の避難計画手引き作成委員会 3月8日(火) 於:中央合同庁舎8号館 尾形副会長
 - (5)ネパール大地震救援募金委員会 3月9日(火) 於:岸記念体育会館 尾形副会長、小野寺事務局長
 - (6)故谷口けいさんを偲ぶ会 3月13日(日) 於:青山葬儀場 八木原会長
 - (7)富士山利用者負担専門委員会 3月14日(月) 於:都道府県会館 尾形副会長
 - (8)山の日の歌 選考委員会 3月21日(月)・(火) 於:ホテルグランドパレス 尾形副会長
 - (9)日体協臨時評議員会 3月23日(火) 於:グランドプリンスホテル新高輪 尾形副会長
 - (10)第18回秩父宮記念スポーツ医・科学賞表彰式 3月23日(火) 於:グランドプリンスホテル新高輪 尾形副会長
 - (11)パキスタン・ナショナルディー・レセプション 3月23日(火) 於:ホテル・ニューオタニ 尾形副会長
 - (12)スポーツ安全協会評議員会 3月24日(火) 於:霞ヶ関ビル東海大校友会館 尾形副会長
 - (13)J O C 総務委員会 3月24日(火) 於:岸記念体育会館 小野寺事務局長
 - (14)S C 日本選手権兼日本ユース選手権リード競技大会マムートカップ 3月26日(土)~27日 於:印西市松山下公園総合体育館 八木原会長、尾形副会長、森下競技部長
 - (15)三宅村クライミングウォールリニューアルオープン式典 3月30日 於:三宅村 亀山副会長
 - (16)奈良県山岳連盟前会長、(公社)日本山岳協会参与 山口健次郎様ご逝去 3月28日(月)

寄贈図書

| | | |
|-----------------------------|-------------------------------------|--|
| 寄贈本 | (株)山と溪谷社 | 「首都圏1000kmトレイル②『詳しい地図で迷わず歩く!奥多摩・高尾384km』」佐々木享著 |
| | (株)山と溪谷社 | 「山村を歩く」岡田喜秋 著 |
| 雑誌 | (株)山と溪谷社 | 「山と溪谷」No.973 |
| | (株)山と溪谷社 | 「Climbing joy」No.15 |
| 会報 | 特定非営利活動法人日本スポーツ芸術協会 | 「Sports Art 2016」 |
| | 兵庫県山岳連盟 | 「兵庫山岳」第586号 |
| | (公財)健康体力づくり事業財団 | 「健康づくり」No.456 |
| | 福岡国際センター | 「FCC news」53 |
| | 富山県山岳遭難対策協議会事務局 | 平成27年度「山嶺」 |
| | (公財)全日本ボウリング協会 | 「JBC news」第533号 |
| | 大阪府立体育館 | 「季刊 府立体育館」No.116号について |
| | (公社)日本武術太極拳連盟 | 「武術太極拳」2016.4.10 NO.318 |
| | 新潟県山岳協会 | 「新山協ニュース」第323号 |
| | (公社)国土緑化推進機構 | 「ぐりーん・もあ」第73号(春号) |
| | La rivista del Club alpino italiano | 「M o n t a g n e 360」Aprile 2015 |
| | (公財)埼玉県体育協会 | 「スポーツ埼玉」2016Vol.272 |
| | 鹿屋体育大学 | 「邁進」第22号Mar.2016 |
| | 日本勤労者山岳連盟 | 「登山時報」No.495 |
| | 中国登山協会 | 「山野 CHINA OUTDOOR」2016 03 総211期 |
| | Korean Alpine Federation | 「大山聯」Vol.208 2016 April |
| | (公社)日本山岳会山梨支部 | 「甲斐山岳」第8号 |
| | スポーツこころのプロジェクト運営本部 | 「スポーツこころのプロジェクト新聞(スポここ)」第12号<2016年度・春号> |
| | NPO日本ヒマラヤン・アドベンチャー・トラスト | 「HAT-J NEWS」No.101 |
| | (公社)日本山岳会 | 「山」No.851 |
| | (一財)日本防火・防災委員会 | 「地域防災」2016.4No.7 |
| | 日本山岳写真協会 | 「日本山岳写真協会ニュース」4月号第431号 |
| | 東京野歩路会 | 「山嶺」No.1034 |
| | 福岡県山岳連盟 | 「せふり」5月号No.374 |
| 玲峰グループ | 「玲峰誌」85号 | |
| やまびこ山想会 | 「やまびこ山想会」会報 第164号 | |
| 愛知県山岳連盟 | 「愛知岳連ニュース」平成28年3月15日第417号 | |
| (公財)尾瀬保護財団 | 機関誌「はるかな尾瀬」Vol.29 | |
| (独)日本スポーツ振興センター国立スポーツ科学センター | 「News Letter JISS」Vol.28 | |
| 京都府体育協会 | 「京都府体協時報」第121号 | |
| くまもと観光コンベンションセンター | 「くまもと観光コンベンションニュース」2016 Spring | |

編集後記

風薫る5月、緑がまぶしい季節になったが、九州熊本地方では地震活動の活発化に収束の気配がない。被災された方々には心よりお見舞い申し上げます。既知の通り日山協では義援金の募集を始めています。改めてご協力をお願いします。
(広報担当 水島彰治)

NPO法人 北丹沢山岳センター

事務局 〒252-0184 神奈川県相模原市緑区小淵1545-1
TEL 042-687-4011 FAX 042-687-3980
E-MAIL kitatanzawa@kib.biglobe.ne.jp

蛭ヶ岳山荘 TEL:090-2252-3203(衛星電話)

神の川ヒュッテ TEL:042-787-2276

和岡峠「峠の茶屋」 TEL:042-687-2882

理事長・代表 杉本憲昭

NPO法人 北丹沢山岳センター

神奈川県・山梨県東部トレイルラン連絡協議会

事務局 〒252-0184 神奈川県相模原市緑区小淵1545-1
TEL 042-687-4011 FAX 042-687-3980
E-MAIL kitatanzawa@kib.biglobe.ne.jp

- 北丹沢12時間山岳耐久レース実行委員会
- 陣馬山トレイルレース実行委員会
- 八重山トレイルレース実行委員会
- 東丹沢宮ヶ瀬トレイルレース実行委員会
- 上野原秋山トレイルレース実行委員会
- 南高尾城山陣馬山セットトレイルレース実行委員会
- 峰山トレイルレース実行委員会

大会々長 杉本憲昭

登山月報 第566号

定価 110円(送料別)
予約年間 1,300円(送料共)

昭和45年12月12日
第三種郵便物認可
(毎月1回15日発行)

発行日 平成28年5月15日
発行者 東京都渋谷区神南1-1-1
岸記念体育会館内
公益社団法人日本山岳協会

電話 03-3481-2396
FAX 03-3481-2395

山岳
雑誌

岳人

山と人、
時代をつなぐ
「岳人」。

ひとたびページをめくると、先鋭的な現役クライマーから、散策を楽しむ登山愛好者、一線を退いた往年の登山家まで、「岳」を愛するすべての人々の想像力と冒険心をかきたてる、そんな存在でありたい。山の魅力や楽しさ、そこで生まれた文化を伝え、山と人との関係をより良いものにしたい、そんな思いを込め「岳人」をお届けします。

岳人 2016
June
No.229 6



韓国★の山

6月号
5/15発売

年間購読がおすすすめです。

購読割引 **送料無料** **限定品プレゼント**

年間購読なら、お得な価格で毎月お手元に冊子が届きます。

通常単行本価格12冊

年間購読12冊

8,160円税別

→ 7,480円税別

1年購読680円
1冊分送料

(税込8,812円)

(税込8,078円)



岳人オリジナル
限定品は、ペーパークナイフ

「岳人」2016年6月号

【特集】韓国★の山

【野村浩将】フリチョフ・ナンセン「グリーンランド
と峡湾」／石川直樹「アジアの山に生きる」／
直山重隆「山と海の出逢い」 etc

通常880円税別

★モンベルのウェブ
サイト、全国のモン
ベルストアや書店
にて販売中!

年間購読
お申し込み方法

ウェブサイトで
<http://www.gakujin.jp>

※お電話で（受付時間内）お申し込みいただけます

0120-982-882 / TEL 06-6538-5797
受付時間：平日9時～18時、土曜9時～17時

※全国のモンベルストアで

<http://store.montbell.jp>



文字どおりの保険員。

MS&AD

三井住友海上

わたしの ゴール キーパー。

GK

7人まで保険 7人まで保険 7人まで保険

www.ms-ins.com



HAKKAISAN



Tested by heart.

Our DNA: Absolute Alpine. Our laboratory: the mountains. We have subjected our products to the most extensive health checks in the shadow of the mighty trio of the Elger, Mönch and Jungfrau. Result: pulse-quickening Swiss quality. Side-effects: heightened release of endorphins and adrenalin rushes. Now it's up to you – experience the new Mammút collection for yourself! www.mammut.jp

WALDMANN 山道



MAMMÚT
Absolute alpine.

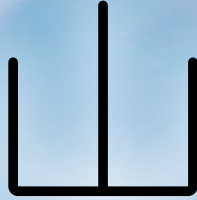
JMA

守ります。美しい日本の山。

祝

8月11日

(2016年より)



国民の祝日

山岳保険は

日本山岳協会 山岳共済会

<http://sangakukyousai.com>

〒170-0013 東京都豊島区東池袋3-7-11-707

TEL:03-5958-3396 FAX:03-5958-3397

E-mail:sangakukyousai@mbd.ocn.ne.jp

月～金 10:00～17:00(祝日除く)

Webからも申込みます